

Dr.わーだーの養生記

vol.26

「袖(そで)振り合うも
多生の縁(えん)」

こちいいん
心血医院 院長 和田 豊郁



振り合うは触れ合うと同じ意味。道で知らぬ人と袖が触れ『失礼しました!』と言う。そんなことも前世からの因縁ですよ、という仏教の輪廻転生に基づいた話です。振り袖でなくても和服の袖にはたっぷり布が使われています。その袖が人と触れ合わないように間を空けて暮らしていたからこそ、こんな言葉が生まれたのだと思います。食事のときには、袖が隣の人の腕に当たらないように、注意するのではなくてお膳の間を開ける。ひとりに必要な幅は畳の幅くらい。畳の縁(へり)を見れば必要な距離が一目で分かります。日本は古来から中国の文化をどんどん取り入れて発展してきました。紀元前の中国の医学書には『風邪は百病の長』とあります。今の新型コロナやその後遺症のようなことが古代中国でも起こったのでしょう。病気になったら回復を祈るしかありませんから、袖を利用した間の空け方やお膳は感染予防策だったのかもしれませんが。余裕のある袖は咳やくしゃみの飛散防止にも役立ちます。

■ 心血医院

久留米市日吉町14-68 / TEL.0942-65-5129

診療時間:〈月～土〉9:00～12:00、〈月火・木金〉19:00～22:00

休診日:日祝・盆・年末年始